

## 彼等に勝利を與へよ

講演梗概

日本基督教女子青年會幹事

河井道子

私の題は『彼等に勝利を與へよ』と言ふので此の勝利を與へよと言ふ事は彼等に何でも勝つ事利になる事を與へて貰ひ度いと思ふのであります。何事に限らず勝つと言ふ事は嬉しい、敗けると言ふ事は口惜しい事であります。喧嘩をしても走り競べをしても勝負事に負けるとよく物を投げたり、ほうりつけたりするのであります。私は其んな意味での勝利ではないのであります。西洋では一般に子供と言ふ事に付いて早くから研究して居たのであります。學者も教育者も家庭に於ても如何にして子供を育てたら善いかと言ふ事には非常に熱心であるのであります。私の知つて居るアメリカの或家のお話であります。其の家には六歳になる男子が居ました。日頃から大層可愛がつてゐました處が御承知の通り歐羅巴に於きましては古今に無いと言ふ大戦争が始りました。其結果澤山の人が戦死して、お父さんを亡したり。お母さんをなくした孤兒が澤山に居ます。

是等の兒童は育てる人もなく其日々々の食物や着物も無いのであります。亞米利加では是等の人を救ける爲にお金を送つて上げるのであります。そこで或時其母が子供に向つて佛蘭西、英國、白耳義の方では戦争の爲に澤山のお父さんやお母さんを亡つて養ふ人が無いのであると委しく其有様を説いて聞かせ終りに『斯う言ふ有様だから私の家でもお前の兄弟が二三人あつたと思つて二三人程貰ふと思ふが如何だらう。然し貰ふと言つてもお金を儉約して送つて遣るのだから今日からは儉約しなければなりません』と言つて聞かしたのであります。其子供は大層アイスクリームが好きでありました。或時母親は子供を連れて日本で言つたら三越を見た様な家に買物に參りました。大層熱いので子供に一つアイスクリームを與へて遣り度い必度子供が喜ぶに異ひないと思つて子供に向つて『アイスクリームを一つ買つて上げ様ね』と言ひました。處が子供が『お母さん、

其のアイスクリームのお値段はいくらです』と言ふのです。日頃よりも態度の異ふのを不思議に思つてゐましたが『其價は拾五錢です』と言つて聞かしました。子供は直ちに『お母さん大層高いのねー十五錢あれば佛蘭西の子供を一度貰つて養ふことが出来るではありませんか。だから私はアイスクリームは要りません其のお金を向ふに送つてやりませう』と申しました。母は、感心してしまつたのであります。

是は母が前に申しました言をよく聞いて自分の心から出た貴い犠牲の精神であります。自分の慾望、肉慾に打勝ちて人の爲に盡すと言ふ貴い精神であります。斯の精神は成長の後には社會の爲、人の爲に自分を犠牲にして盡すと言ふ大精神に外なりません。今一つのお話はやはり之も西洋のお話であります。其の子は母を食べると必ずはしかの様になつて體中に吹出物が出るので、お医者様に見て貰ふと、此子の體には母が合はないのだから母を食べさす事はならん。と申されました。所が生憎其家には澤山の母が前の畑にあるのです。でお母さんはよく母を食べてならない事を言ひきかせて置いたのでありま

す。或日の事、二階に居た母の所へ子供が飛び上つて蒼い顔してブル／＼振へて居るのです。お母さんは如何したのだらうと思つて、其の子に問ひました。處が、子供が言ひます様には、今下に大きな母が五つ程ありました。と言ふのです。其子はキット、ア一食べ度い欲しいと思つたに異いぬ。然し之れを食べてはいけぬと思つた時には、どんなに辛かつた苦しかつた事でせう。其れをおさへて二階に上つて來たのですもの、母親は子供を抱いて泣きました。之が其子供の大勝利なのであります。自分の慾を制して、之を打破つたと言ふ事は、如何に偉い事です。此の精神がやがて大人になつた時に、自己の慾望を抑へる事の出来る精神であります。下度酒の好きな人が、酒屋の前を通つてブン／＼匂ふ酒の香を餘所に見て通り過ぎると同じであります。大人でも之の丈の自我に勝つと言ふ事は、容易な事ではありません。次には大分大きくなつた六つ位の子供でありました。其家は甚だ教育に熱心な家でありました。凡て西洋では金の使用なり、金の貯蓄と言ふ事に付いても、始終教へて居るのであります。例へば子供に庭を掃かして。其働きに對して五錢やるとか又一

度のお使に對して幾らやるか言ふ風にして、貯蓄法を教へ、又之を使ふにも教育するのであります。

其家でも色々の子供の勞力に對して、一定の金をやつて貯金させて置き、之を出して使ふ時には、必ず十分の一を慈善事業に出すと云ふ事に定めてありました。之は一吋小さい様ですが、拾錢に對しては壹錢、壹圓に對しては拾錢、百圓に對しては拾圓、千圓に對しては百圓、拾萬圓に對しては壹萬圓と言ふ風に決して小さい金ではありません。であるから其子が貯金の十分の一を慈善事業に出すと云ふは、随分辛い事でありませぬ。之をきめた處の母親も教育に熱心な偉い人でありませぬ、處が或時活動寫眞が參りました。其寫眞は印度のライオンの格闘や、其他面白い寫眞でありました。そこで之をきいた子供は直ちに家に歸つて、「お母さん、活動寫眞が來ました、それはく面白く爲になる寫眞ですが見に行つても宜しいですか。」と問ひました。母親はしばらく考へて居ましたが、『それは宜しいがあなた貯金はあるでせうね、』と問ひました。子供は貯金を調べて見ると丁度拾錢あるので、早速母に大丈夫あります。と斯う答へて喜んで居るのでした、母は尙『お前が一人で

譯にはならぬから他の誰かゞ従いて行かなければならぬ、そこで何時ものお約束の十分の一は出さなければなりませんよ。』と言はれて子供は暫く茫然として蒼い顔をしました。十分の一出すと活動寫眞に行く事が出來ない。困つたと思つて母親に又歎願したのでありましたが、母は『どうも之丈は許す事が出來ませぬ、此の事は神様に誓つてあるのだから、若し之を許せば神様に嘘をつく事になるのですからどうもならない。』と申した。處が今まで快活であつた子供は、忽ち憂鬱になつて其の夜は寢てもウン／＼唸つて居るのです。是を見た母親は、子供よりも猶苦しかつたのです。けれ共此時こそ子供が自分の慾に打勝つと言ふ事を教へなければと思つて、苦しい胸を抑へて子供の活動寫眞に行く事を許しませんでした。其後一日二日と苦しい日を無理に抑へて過しました。三日を経て或日の事子供が『お母さん、私はもう活動寫眞なんか行きませぬ。活動寫眞なんか何時でも見られるのですね、又此後にも來るのですつて』と言ひました。そして『私は十分の一ではない貯金の全部をあげて慈善事業に寄附させよう。』と言ひました。此時は嬉しさの餘り、其子供を抱き

上げて、『眞實にお前は偉い子供だよ、百萬圓の金を得たよりか、幾許嬉しいか分らない』と言つて嬉し泣きに泣きました。其家には何時でも世界地圖を家に貼つて居まして此處がエデプトだ、此處が支那だと言つて聞かして斯う言い國には澤山の困つた子供が居るのだ。で此國の人達へ送つてやりませう、と此處に外國の爲に使つたのであります。中には若い人達で酒を呑んだり、遊びに行つたり、芝居に行つたり、斯うした遊びに澤山の金を使ふのであります。然るに僅か六つか七つの兒童が教育的活動をさへ見に行かず、遊びにも行かずに人の爲に犠牲になると言ふ事は、慥かに勝利であります。大勝利であります。斯うした話は澤山あつてとても盡きません。今日の新聞を見ますと、立派な人が金を取つたとか、まいないをしたとか、或は殺したとか殺されたとか色々の事が澤山出て居ます。之は一體どうしたのでせうか。大人になつたからしたのでありませうか、學校を卒業して一人前になつて後に斯うした心が起つたのでせうか。いゝえそうではありません、子供の時に既に／＼親から教へられたのであります。子供が好きと言へば直ちに之を與へ、買ひ度いと言へ

ば買つてやり、すべて子供のしたい事、食べ度い事を親から我儘に與へられて居たのです。でありますから、子供の時から少しも自制心と云ふものが無いのであります。之は上流下流中流なべて皆斯うした、教育を行つて來たのであります。此爲に子供が大人になつた時、自ら慾を制して爲すべき事を爲すと云ふ堅固な心がないのであります。私はキリスト教信者でありますが、キリスト教では子供を大變愛し尊ぶのであります。人間は子供の様にならなければならぬ。子供の様な正直な心を持つて大きくなつても正直な人になり度い、正義であり度いと祈るのであります。そこで大人であつても、軍人であつても、學者になつても何卒眞實の人間になる様にと神様に祈るのであります。であるから大人であるからと言つて、決して自ら誇る様な事はなく、正の爲、義の爲に盡すので、従つて國の爲にもなるのであります。今から三代前の米國の大統領ルーズベルトには子供が六人あつて、其中男が四人、女が二人、是等に與へた手紙を集めた本は有名なものであります。ルーズベルトは自分の子を自分と同様に取扱つて、子供の人格を尊重し、子供に話す時にも、子供に與へる

手紙にも、皆他の大人に與へると同様にして居たのであります。家に居ても學校に行つても、旅行先かも寄越す手紙でも、總べて子供を信じ、子供を尊重して居たのであります。其の中の確か二番目の子であつたと思ひますが、此子供が高等學校から専門學校に入學する時に、父に其の選擇に付いて手紙を寄越しましたルーズベルトは其の手紙を見て、彼に與へた返事に言つてゐますには『あなたの手紙ははつきりして、條理整然として餘程よく理解される様にして書いてありました。が、あなたは何故に此學校を選ばれたのですか、貴方は將來の生活、將來の社會的位置、即ち立身出世するには如何なる方面が最も困難がなくして早道であるかと言ふ事に依つて貴君の將來の方針を定められた様ですが、然し私の考へでは最も難しい最も力のかゝる骨の折れる様な學校を選んで、其の苦しみや、困難を切り抜ける事をなし得ると言ふ事に付いて貴君を私は信じてゐます。斯う言ふ風でなかつたならば成功は難しいと思ひます。斯うした強い精神を貴方が持つて居ると言ふ事を疑ひません。そうして貴方は此の強い精神の下にお國の爲に働く事になると言ふ事をも信じて居ま

す、『斯う言ふ風に子供を責めないで、自分の子と自分と同等にして自分よりもより以上な高尚な品格と、正しい心を持つ様に子供の時からよく教育をすると言ふ事は大切であります。皆さんはまたアブラハム、リンコーンの事をおきゝになつた事があると思ひます。リンコーンの母は始終、リンコーンに教へて『お前は大将とか、偉い者になれとは申しませんが、唯正直な、誠實な人になつて欲しい。』と言つてゐました。であるからリンコーンが成長した後、世界の正義の爲に働く南北戦争だけに矛を取つて起つたのであります。私の所の大家さんに可愛い三つ四つの子供が居ります。よく私の所へ遊びに參りますので、私が之を呼びますと兄の方が、『何だ女の所へ行くものか』と言ひました。すると又其小さい三つ四つの妹が兄の眞似をし、『何だ女の處へ行くものか』と申します。斯う言ふ風に女を侮ると言ふ事は小さい時には意味は分らないのですが、他の大人が妻や女に對して卑むと言ふ者がこの小さい子供に傳つて小さい時から女を卑むと言ふ觀念を教へるのであります。夫が其子の母親を打ち兄が妹の物を破つと言ふ習慣を作るのであります。私は小さい時には、

餘程貧乏な家庭に生れたのでありますが、幸にも前後十年間西洋の方にも行ききました。あちらは田舎にも都にも居ましたが、其の間大人や小供が戸外で小便をして居るのを見た事は、唯の二度しかありません。一度は伊太利の田舎、一度は佛蘭西の町で見たぎりであります。日本では本町筋に大きな男が立ちながら何でもないと言ふ風にして居るのを見るのであります。私は田舎に行つて子供を見ますが、學校で十分の休みの間に行かしめるのに、猶十分、十五分と時間が立つと、お小用に行き度いと言ふのを見ます。之は便所に行つてはならない時と行くべき時と言ふ事を、先一人々々の親が教へて居ないからであります。従つて大人になつてから、之を恥と思はないのです。之は國民道德と大切な關係を持つてゐます又、日本人は間食が多いので便所へも澤山行くのであります。子供が食べ度い時に食べさせ、好きだからと言つて買つてやる事は、大人になつて放蕩な人を作るのであります。すべて自己を制すると言ふ事を教へるのは子供の大勝利であります。一人の善い國民を作るのと、一人の悪い國民を作るのとは、國家に對して大變な相違があります。二三日前に西

洋の或話を聞いたのでありますが、其話に依ると、馬鹿な夫婦が居て其の子孫が培えて、四十八年間に五千人の馬鹿や、悪人を生じたと言ふ事があります。此の五千人の者を監獄に入れて世話をするのは、莫大な金を費すのであります。これも學校とか、其の他社會の爲になるものであれば好いのですが、確でもない五千人の者を世話をする爲には二億圓と言ふものを費すのであります。二億圓と言へば、小さい様ですが、日本の財政が十五億と言ふに比しても大變大きいのであります。故に一人の人が馬鹿であり、一人の子供が悪ければ如何程國家に大なる關係があるかと言ふ事が分ります。で私は國の爲、社會の爲から申しても、子供に勝利を與へてやらなければならぬと思ひます。其れは子供が良かった時にはよくほめてやる事であり、決してほめると言ふ事はおだてると言ふ事ではありません。例へば子供が御飯をこぼした時に、其のこぼし様が前よりも少なかつた時には、お前は前よりも大層御飯を食べる事が上手になりました。と言つて教へてやるのであります。それを頭から馬鹿だとか、つまらない奴であるとか、言つて叱るのではありません。之は學

校へ子供が行かない時でも同じであります。行つた時には之をほめて之に獎勵を加へてやるのであります。子供に對しては勿論母が大責任を持つものであります。父も亦責任を持たねばなりません、私が知つて居る家に、子供が泣く時に大變大きな喉がはち切れる様な聲を出します、之れは其お父さんが、日頃から言葉が大變荒ぼく、大きな聲で子供や女中を使ふので其れを見ならふのであります。外出の時でも同じであります。夫婦が合はない時は、色々な不都合を生じるのであります。例へば、母が三越に行つた時、お父さんに内密に物を買つてやるから言ふな、とか又、父親が淺草に連れて行つて物を買つてやつて、お母さんには内密だと言ふ様な事をすると、大人になつて遂に金使ひの荒い者を生じるのであります。又此の子供の前で父が母を叱ると言ふ様な事は母親の價値を下げ、母親が父親に色々な物をねだると言ふ事は、子供の教育の爲に決して、善い事ではありません。でありますから、子供の教育は夫婦互ひに理解の下に行はれなければいけません。又、子供はバ、とかバカとかおバケ、とか言ふ言葉をよく使ふものであります。私の知る子供に

オバケコハイ、と言ふ事から暗い部屋であるとか、便所に一人行けないのであります。之は其父母が小さい時に、オバケのおそろしい事を教へた爲に、其れを思ひ出しては行く事が出来ないものであります。兎角無學な親がよくおバケとか、馬鹿とか言ふ事を用ひるのであります。注意しなければなりません。それよりもつと大きく自然に親んで子供を正しい方に導かねばなりません。子供に理由があれば、充分それを聞いてやると言ふ事が必要であります。

米國の大哲人エマーソンは子供を教育するのに、子供の言ふ事を、他から見たら馬鹿の様に眞面目に聞いてやるのであります。そうして子供の人格を尊重するのであります。或友人が、エマーソンに言ふのは『そんなによく子供の言ふ事を聞いてやる必要はありません』と言ひました。ところがエマーソンは『決してそう言ふわけのものではない。子供に對しては充分人格を認めてやらなければならぬ』と言つたのであります。此の事は我々の習ふべき事かどうか子供には勝利ある最後を與へてやり度いものであります。教育の如何に依つては、名譽とか富とか言ふものゝ奴隸にもなり人をだまし、或は放蕩になり、或は吝嗇にもなるのであります。(筆記文責記者)